



イベント 特集号  
**希 望**

いのちのバトン

NO 3

**ハートフルメッセージ展 実行委員長 高野 豊**

この度、当会の骨髄バンク命のアサガオにいがた一周年記念事業 ハートフルメッセージ展において、時節柄何かとご多忙、出費多端な折、事業及び運営に対して多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今回のイベントで力を入れたのが、PR活動でした。事前に骨髄バンクの必要性を訴える講演活動や、各メディアからの協力をいただき多くの方たちへ周知させることができました。イベント期間中にたくさんの方と知り合い、いろいろな思いを持っている方の話を聞くことができ、今後の活動に生かしていこうと、たくさんの方のヒントをいただきました。私は、息子を亡くし当会にお世話になることになりましたが、以前の私は骨髄バンクに関心も知識もありませんでした。息子が白血病になり、私なりに骨髄バンクに対して知識や理解を得ることができましたが、学校や企業回りをしていてドナー登録において、間違った理解をしている方が多いことに驚きました。今、4割の患者さんが移植できずにいる現実を目の当たりにして、こんな悲しい辛いことは無いと思います。それで一人でも多くの方に、移植を必要としている患者さんが身近に居るという事、皆さんの骨髄で助かる命があるという事を知ってもらいたくてイベントを計画しました。お陰さまで、イベントは盛大なうちに終わることができ、関係者の皆様には心より感謝をいたします。今後とも暖かいご支援の程よろしく願いいたします。

◆ 主催の立場から ◆

**新潟県福祉保健部健康対策課 難病等対策係 相馬幸恵さん**

ハートフルメッセージ展を、大盛況の中、無事終えることができおめでとうございます。この間県では、新潟市及び新潟県赤十字血液センターの御協力のもと、4月18日に骨髄バンクドナー登録会を実施し、73名もの多くの方々から登録していただきました。これも、貴団体がイベント実施に至る間、骨髄バンクについての理解及び協力を得るために、多くの企業及び関係団体へ足を運んだ御努力の賜物だと思います。県では、骨髄バンクの推進のためには、行政だけでなく地道ながらも非常に大切な「語りべ事業」や普及啓発等の活動をされている関係団体との連携が不可欠と考えております。今後も、多くの県民の皆様が骨髄バンク事業について十分に理解し、ドナーの登録をしていただけるよう、貴団体をはじめ、関係団体の方々と連携し、お互いの役割を十分に発揮できるよう事業を進めていきたいと考えております。



このハートフルメッセージ展をスタートに、貴団体のさらなる発展と今後の活動に心から期待いたします。

## ◆ 協力の立場から ◆

### 新潟市保健所健康衛生課 企画管理係 本間 聖子さん

このたびの「ハートフルメッセージ展」のご成功をお喜び申し上げます。

私自身、骨髄バンク事業の担当となって1年が経過し、初めて携わるドナー登録会でありました。私は最終日だけ会場に伺いましたが、買い物客で賑わうイオン新潟南ショッピングセンターで、1週間にわたるパネル展示やステージイベントの設定は大変なものであっただろうと推察いたします。また、説明会やドナー登録会に関わるボランティアの方々の熱い思いを感じることができ、登録会の1日だけのお手伝いだけでありましたが、時間があっという間に過ぎたように感じました。この仕事に携わるまで、骨髄バンクのことは詳しくわからなかったのですが、これを機に良い勉強をさせていただきましたし、これからもできるだけの協力をさせていただきたいと思っております。命のアサガオにいがた様のますますのご発展をお祈りいたします。

### 新潟県骨髄データセンター(新潟県赤十字血液センター)業務課 土屋さおりさん

今回、ハートフルメッセージ展・イベントに骨髄データセンタースタッフとして参加しました。骨髄ドナー登録には一人ひとりの自発的な意志が必要です。それにもかかわらず、大勢の方々が会場は終始込み合い、骨髄バンク命のアサガオにいがたの皆様をはじめとして、スタッフの皆様がにこやかに応対されておられました。確かにそこには温もりのある人と人の繋がりがあったように思います。最終的に73名もの方々が新たに登録されたということが言い伝えられた時の、歓声をあげて喜ぶ皆様の笑顔を忘れることはできません。私は出生時に輸血を受け、このために残念ながら献血することも骨髄ドナーに登録することも叶いません。けれども、誰かに助けられて命を繋いだという経験があるからこそ、私もまた誰かの助けとなれたらと強く思います。今回のイベントに参加することで、新たにそう決心することができました。今後も骨髄データセンタースタッフとして、骨髄バンク事業推進に少しでもお役に立てたら幸いです。

\*\*\*\*\*

## ◆ イベント参加者の中から ◆

### 新潟県立がんセンター新潟病院内科部長 石黒卓朗先生

私は今回のイベントで“骨髄バンクドナー・究極のボランティア”のミニ講演を担当しました。骨髄移植の実際・バンクの現状に引き続いて、血液がんの患者さんの人生を通じて命の重さを考えてほしいと訴えました。一人でも多くの方にドナー登録をしてほしいと願いながら精一杯語りかけたつもりです。イベントが実施された2日間は途切れることなく大勢の方が来場され、結果的に一日で70名以上のドナー登録を頂くことができました。骨髄バンクサポート団体のイベントとして本当に大成功であったと思います。これは丹後会長さん・高野さん御夫妻を初めとする会員の皆様の一生懸命の御努力に、イベント参加者の熱いハートが加わった結晶に他なりません。この素晴らしいチームワークに敬意を表すると共に、そこに加わることができた満足感で一杯です。これからは会のお役に立てることがありましたら全力で協力したいと思っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。



## 燕市立小池小学校 道徳／学年主任 金子すみ子教諭

「この男の子はどんな子だと思いますか。」と、写真を見せ、軽く疑問を投げかけました。少しの間をおいて、グリーンスリーブスの曲を静かに流して、語りかけるように光祐くんのあさがお（自作資料）を話しました。静かに聴いてくださる方々を前にして、心を込めて話していきました。「いのち」について、少しでも考えるきっかけづくりになってもらえたら、もうそれだけで充分なのです。私は教師になり、たくさんの人々との出会いがありました。その中で、丹後光祐さんと母親のみみこさんとの出会いは、私にとってとても心を揺さぶる大切なものです。いま、教師として、これからも子どもたちに、「いのちの大切さ・喜び・尊しさ」を強く訴えていきたいと、心新たにすることができました。「生きていてだけで百点満点」子どもたちに、この言葉をいつもし葉とともに贈っているのです。



## イラストレーター 末吉陽子さん

イベント終了後、こうすけ君のアサガオの種を多めにいただいて東京へ帰りました。皆さんの活動に触れ、イベントに関わらせていただいて、感じたことは多く、それをアサガオの種と共に出会った誰かに少しずつでも伝えていければと思ったからです。病と闘う人たちの中には、未来を当たり前のこととして思い描けない状況にある方がいて、そのまま消えてゆく命もあって。それを思うと、穏やかな日常が今日もこうしてあること、大切な人たちが生きていてくれること、そのことに感謝して、日々大切に生きていかなければと思います。そして、その方たちのためにできることがあるのなら行動していきたいと思う。そのひとつが骨髄バンクへの登録だと思っています。73名の登録があったこと、イベントに関わらせていただいた一人として、私もとても嬉しく思います。ハートフルメッセージ展では皆さまおつかれさまでした。そして大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



## スーパーエンターティナー 加藤マチャアキさん

新潟に向かう朝、私の住む山形県高島町は、4月の中旬というのに、除雪車が走るほどの大雪、スノータイヤも変えたばかり。安全運転を心掛けながら、私を待つ新潟の骨髄バンクを支援する仲間たちに会いに行く。新潟に到着した頃は、風は強いがとてもいい天気。気分までさわやかになる。巨大なショッピングセンターの中に高野さんご夫妻の笑顔。思わず、ぐっとくる。山形のイベントでいただいた本がよみがえる。このイベントをするまでに、どれだけのご苦労があったらう。そんな気持ちは僕だけじゃなく、ここにいるすべての人が感じ取り、『かけがえない命を救う』という大きな目的の一つになっていた。その中の3回のステージ。本当に楽しかった。たくさんの素敵な人にも出会えた。『愛』と『命』のメッセージを『歌の力』で伝えていく事、それが、私の『夢』。また、皆の力になりたい。新潟で出会えた全ての人へ、心からありがとう。



## OGB 関根 明さん

『骨髄バンク命のアサガオにいがた』1周年おめでとうございます。

私は、骨髄バンク啓蒙活動の一環として、いままで何回か音楽演奏という形で参加させていただきました。今回は、初めて『姓名占い』もやらせていただきました。占いをやらせていただいて気づいたことは、多くの方々が何らかの不安や悩みを抱えていること。ややもすると、人間は自分だけが不幸であると勘違いしがちですが、不安や悩みを抱えていない人のほうが少ないのかもしれない。不安や悩みを皆で共有し、お互いを助け合う気持ちが日々の生活の中で必要なのではないかと、ということ強く感じさせられました。ボランティアをすることに対して、偽善的な捕らえ方をしたときがありました。しかし、数ヶ月前にサンケイ新聞のコラムに、「弱い人たちに対する何らかのボランティアは、偽善でも必要なことだということ、この歳でやっと気づきました」というような意味のことが書いてありました。人間みな、一人では生きていけない、不安や悩みを共有し助け合う気持ちが、骨髄移植を待っている患者さんや、そのほか困っている人の、心のよりどころになるのだと思います。



## 合唱団ユートライ 団長 渡部美恵子さん

過日は、ハートフルメッセージ展・イベントに参加させていただきました、ありがとうございました。私どもの演奏が、このイベントの一助となったのでしたら幸いです。私どもは普段、定期演奏会やコンクールに向けて練習しています。このお話をいただいたときに、初めてのことで不安もありましたが、高野さんの熱意に打たれました。健康で合唱が大好きな私たちの演奏が、何か伝えることができるならと参加を決意しました。当日は、会場の熱気に背中を押され、また、たくさんのお客様が足を止めてくださったこともあり、精一杯演奏させていただきました。微力ではありますが、皆様の活動をこれからも応援させていただきたいと思います。



## 支援音楽隊 RYO(田巻亮祐)さん

私が白血病という病気を初めて知ったのは、小学生の頃に読んだ『金色のクジラ』(岸川悦子・著/ひくまの出版)という本でした。白血病の男の子と家族で闘う物語でしたが、その内容の辛さゆえ幼心に読んでいる目を背けそうになったことを覚えています。それから20年経ち、五体満足でここまで過ごしてきた私が、身近なところで家族みんなで白血病と向き合い闘っている方々と出会い、同じステージに立つとは、あの頃は想像もしませんでした。支援音楽隊としてハートフルメッセージ展の出演が決まり、ステージに立つ瞬間までずっと、ドナー登録者でもなければ、人に勝るほどの十分な知識もない、そんな人間が立って良いのだろうか?という不安がありました。しかし「これから一緒に登録して勉強していく仲間の代弁者となり、今出来る範囲で最高のものを伝えよう」その思いでステージに立ちました。その思いが誰かに届いたかどうかはわかりませんが、心温まる素晴らしいステージに立てたことを嬉しく思います。



## M I K A さん

今回このイベントに出演させて頂いてとても楽しく歌うことができ、そして骨髄バンクについて知ることが出来ました。最初、骨髄バンクは名前だけは耳にしたことあるなという感じで、内容のことも知りませんでした。しかし、高野さんに頂いた本を読み内容を自分なりに理解してからイベントに取り組めたのでとても良かったです。とても感動しました。これを読んだことによりいつもより増して私を感じ、受け取った気持ちがしっかり入った歌が歌えたと思います。そしてラジオでも私の曲を流して頂き、本当にありがとうございました。私も一回り大きく成長出来たそんな気がします。骨髄バンクのイベントに協力させて頂いたことを心から嬉しく思います。また私自身、初めての大きなイオンという場所でやらせて頂いたことにも感謝です。このドナー登録というのはとても重く、一人一人の気持ちによって成り立つものです。これからもっともっと登録者が増え、多くの人の命が助かることを願っています。またこのようなイベントがあったら少しでも力になればと思います。本当にありがとうございました。



## 『骨髄バンク PR バンドとして』 CLOUDY LABEL 代表 陣内裕次郎さん

上越を中心に全国で活動している音楽事務所 CLOUDY LABEL です。今回で命のアサガオでの骨髄バンクの PR ライブは二度目になります。楽しいイベントで終わってしまうのは残念なので、話を聞いてもらう時間を多く取りました。楽しさの裏側にある、過酷な現実、そして何より、簡単にドナー登録をお願いしますと訴えているわけではないという事を、ご来場者の皆様に耳を傾けて頂いた事に感謝致します。CLOUDY LABEL は、このイベントをもって、解散し、新たに『CLOUDY “J” LABEL』として、大きく生まれ変わります。今後、命のアサガオ様に協賛し、更なる支援活動に取り組んで参ります。ご来場の皆様、命のアサガオの皆様、ドナー登録にご協力頂いた皆様、そして、高野豊実行委員長に、重ねて厚く御礼申し上げます。



## ◆ 似顔絵の協力 ◆

### 新潟デザイン専門学校イラストレーション科 二年 青木茜さん

実は私は生まれてこの方十九年、一度もボランティアというものに参加したことがありませんでした。薄情な人間と思われるかもしれませんが、「ボランティア」という響きが、なんとなく好きではなかったのです。小中学校、高等学校等で募集されるボランティアなどには、馬鹿なのではないかというほど参加していませんでした。ほとんど意地になっていたのだと思います。しかし、似顔絵が描けるということで参加させていただいた「ハートフルメッセージ展」で、少しだけ考え方が変わりました。自分のちょっとした力で、あんなにも喜んでくださる方々が大勢いることを、直接感じ取る事ができ、それが自分にも嬉しい。そんな体験は今までありませんでした。ずっとボランティア活動を拒否してきた自分がいかに勿体なかったか、この原稿を書きながら思います。これからは多くのイベント等に参加して、あの感じを沢山味わいたいと思っています。

## ◆ボランティアの協力の中から◆

### 新潟市立亀田西中学校 3年1組 生徒会副会長 熊倉美穂さん

4月9日に高野さんから亀田西中学校に来ていただいて、白血病や命の重さ、支え合って生きる大切さなどを私たちに話しをしていただきました。その話を聞いて私は、命の尊さ、大切さについて考えさせられました。そこで、少しでもそんな患者さんのために役に立ちたいと思い、イオンで行われたドナー登録会のチラシ配りにボランティアとして参加させていただきました。当日は、チラシを見てくれた人が会場で行われたイベントに参加してくれたり、ドナーに登録してくれた人がいたので、チラシ配りをしたよかったなあと思いました。私たちが配ったチラシで少しでも白血病のことや骨髄移植に関心を持ってもらえたらうれしいです。18歳になったらドナーに登録して、私も白血病の患者さんを助けたいと思います。

\*\*\*\*\*

## ◆ 骨髄バンク協力店 ◆

### 小池ろうそく店様

僕は今まで「骨髄バンク」の意味や認識はなにもありませんでした。がしかし、高野氏と出会い、骨髄バンクのイベントの趣旨、また意義を説明いただき「小池ろうそく店」として協賛の意を決めるまでに多くの時間を必要とはしませんでした。また高野氏と新潟イオン南店の担当関係者と打ち合わせも立会わせていただき、僕が想像しているイベントよりはるかに規模の大きい構想にただただ驚くばかりでした。さらに、イベント出演に娘の「MIKA」が参加させていただくことにもなり、ラジオ・テレビなどの報道機関での協力も得てどんどんその輪が広がっていく様子は通常のイベントとは異なる「見えない力？」が働いている…そんな感じを受け一人感動していたのでした。さらにそのイベントの参加者は遠方からでも多くのボランティアスタッフが駆けつけ、さらに音楽関係のアーティストも数多く出演し、「人の輪」を前面に行う意義ある「ハートフルメッセージ展」は、参加した多くのスタッフはもちろん、買い物に来ていた一般客に多くの感動を与えました。僕としても新潟イオン南店において記憶に残るようなイベントに出展して、またその場にはいないと説明できないような感動を共有できたことに感謝します。ありがとうございました。



## ◆ 実行委員会の中から ◆

### ハートフルメッセージ展 実行委員会 総務 丹後まみこ

この度、骨髄バンク命のアサガオにいがたの一周年記念事業が無事に盛大に終わることができましたこと、関係下さった多くの皆様方に心より御礼申し上げます。

実行委員長 高野豊が声を上げた時、内心「どの程度の規模でやるのかなあ？私はそんなに動けないし…でも、やるからには、私のできることは最善を尽くそう」と思いました。手前味噌ですが、実行委員長はアイデアがあり行動力があり頼もしい限りでした。11月中旬から1月末まで、企画書をもって行政・企業・団体へ後援・協力・協賛依頼のお願いにまわりました。また、ボランティア募集に学校や社協へお願いした結果、予定数ご協力いただけました。本当にありがとうございました。開催日を迎えるまでには、困難なこともありましたが、みんなの力でこぎ着ける事ができ「一人ひとりの力が集まると大きなパワーになるんだな」と改めて思い知らされました。さて、4月9日は17:00~22:00までパネル写真の展示準備を7人の実行委員でやりましたが、事前にシュミレーションしていたにもかかわらず、いざ現場ではいろいろ意見がでて、調整に手間取りました。私は17日18日両日の参加でしたが、会場に行ったらさらに良くなっていました。チャリティイベントでは、出演者の方々のパフォーマンスを間近にみて感動しました。特にダンスはパワフルでとても楽しそうで、体が自然にリズムをとっていて「生きていることの喜び」を感じた瞬間でした。会場を盛り上げて下さった出演者の皆様、お客様、ありがとうございました。そして、73名のドナー登録をして下さった方々に心から感謝申し上げます。

### ハートフルメッセージ展 実行委員会 総務 高野由美子

一周年記念事業をやりたいと、実行委員長である主人から話を持ちかけられた時、簡単な気持ちで「できたらいいね」って答えたものの、実際主人の考えていたイベントが、ドナー登録会・パネル展・チャリティーライブ・似顔絵・講演会・ライブペイント…期間は一週間。(実際9日間)こんなスケールの大きなイベントはできるのか？本当に不安でした。まず私がやらなければならなかったことは、企画書・協賛・後援・協力を募る書類作り。ボランティアを募る書類など。作っても作っても書類作りが追いつきませんでした。新潟市が何年ぶりかの大雪の日に企業回りをして2件しか回れない日もありました。色々なトラブルも発生し、一つ一つ解決してきました。みんなのやろうという強い思いが大きな力となって、多くの方々の賛同を得ることができ、無事終わることができました。イベント終了時73名という登録者の数を聞いて、みんなの歓喜の声、拍手が起こりやってよかったな~って心から思った瞬間でした。今回のイベントに最初から関わらせて頂き、行政や、各企業回りも顔つなぎという事で全て同行させていただきました。とっても勉強になり今後に生かしていきたいと思っています。関係者の皆様大変お疲れ様でした。そして、心より感謝いたしております。

### ハートフルメッセージ展 実行委員会 総務 大岩和子

17日(土)伊藤さんとDVD席に居た時、1人の男性が目を潤ませながら話しかけてこられました。椅子をすすめて話を聞いたら、14年前にドナーになられた方でした。その当時は、移植を受けた患者さんからの手紙を受け取り、きっと元気になられたと思うようにしてきたが、今、移植を受けられた患者さんの手紙を読ませていただき、その心情がとても良く理解でき、すご~くスッキリしました。胸のつかえがストーンと落ちたようです。ありがとうございました涙を見せて恥ずかしい。と言って帰られました。ドナーは、継続してあるとのことでありありがとうございますと、2人で頭を下げました。心温まるお話を聞け、疲れが吹き飛ばようでした

## ハートフルメッセージ展 実行委員会 総務 土田和枝

骨髄バンク命のアサガオにいがた設立一周年記念イベントが、学生をはじめ多くのボランティアさん、イベントを盛り上げて下さった多くの参加者の方々に支えられ無事終了いたしました。又、忙しい所、講演していただいた県立がんセンター病院の石黒医師、燕小池小学校の金子すみ子教諭、深く感謝いたします。そして何よりも70人以上のドナー登録を下さった方々。DVDをご覧になり提供者側の大変さを知りながらの勇気ある行動は、今現在、病気と闘っている患児、患者様の生きる力になっている事と思います。こんなに優しい人達が身近に居ると言う事、息子を亡くした私にとって、心が暖まり本当に頭が下がる思いで一杯です。これからもドナー登録者が増えて、一人でも多くの命が救えることを願っております。命のリレーが続くことを祈ります。ありがとうございました。

## ハートフルメッセージ展 実行委員会 総務 バルーンアート 稲田哲三

どこから集まってくるのだろう…ものすごい集客力のお店とハートフルメッセージ展のための参加者とボランティアさん。この中に自分が居るのも素晴らしい。大丈夫かな? 圧倒されそう。うん! 大丈夫! がんばっているもの。今までのボランティアの中で骨髄バンクを育てる会(今の前身)から教わった物は数え切れないほどの数で、それが今自分の中に生きています。色々な方との出会いと会話、向かう方向は一緒、今現在の事、今までの事、そしてこの先の事。何か自分にできる活動はないか。10余年程前になると思いますが、家族でバルーンを行っているボランティアさんに出会い子供さんに笑顔で声を掛け、子供さんの表情も笑顔と変わる。これだけ子供さんに夢と、心豊かな気持ちを持ってもらえるよう、目線と同じにしてふれあえるバルーンアート。作った物ではなく、目の前で形を作れるバルーン。目の前の方からエネルギーをもらい、笑顔で返す。骨髄バンク命のアサガオにいがたに少しでも登録、協力してもらえよう微力ですが前へ前へと進みたい。

### 当事業にご寄付を頂いた方

#### (寄付金) (個人)

石黒卓朗様 末吉陽子様 山崎理様

#### (企業・団体)

小池ろうそく店様 サウンドエイト様

#### (寄付品)

廣瀬貴之様 赤川聖子様

高野洋祐・祥子様

当事業にご寄付を頂き心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 《お知らせ》

社会福祉法人 新潟県共同募金会様より、21年度共同募金助成金(22年度事業費)¥265,000-を命のアサガオ種袋費としていただき、平成22年4月1日、新潟県内の公立全小学校1年生574校、18,000人に「命のアサガオ」を送らせて頂くことが出来ました。募金にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。



**編集後記** 皆様から頂いたコメントを掲載した「イベント特集号」がやっと出来上がりました。お忙しい中、暖かいコメントを寄せて頂きありがとうございました。又、イベント期間中は、差し入れや、お土産なども頂き心よりお礼を申し上げます。大盛況で終了できたことは、当会員の大きな自信となり、これからも定期的にドナー登録会が出来るように検討を進めていきたいと思います。今後とも当会にご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。



\* 連絡先 骨髄バンク命のアサガオにいがた 新潟県加茂市五番町14-4 090-5566-5420 高野 豊